

## 西洋医学的治療に苦慮した2例



## 宮原 誠 先生

医療法人社団仁成会高木病院

1990年 慶應義塾大学医学部 卒業  
同大学特殊外来、一般消化器外科  
1992年 同大学泌尿器科  
1999年 医療法人社団仁成会高木病院  
統括副院長、泌尿器科部長、地域連携支援室室長

## はじめに

泌尿器科医として前立腺肥大症の内視鏡手術や癌の手術などを多く手掛け、日常診療では主に西洋医学的診療を行っているが、西洋医学的診療だけでは苦慮することもある。そのような場合、東洋医学的視点をもって漢方処方を行うとより有用性が高くなることを経験することも少なくない。しかし、東洋医学的診察をおざなりにしたために適切な漢方処方にたどり着くまで遠回りすることも皆無ではない。今回、そのような症例を、自戒の念を込め紹介する。

## 症 例

## 症例1：74歳 男性 尿道痛

主 訴：尿道痛、外尿道口痛、不眠

現 病 歴：X年11月、前立腺炎となり点滴治療にて治癒した。X+1年2月、尿道痛のため再受診したが、検尿、尿沈査、血液検査は正常であった。

経 過：尿道痛に対してNSAIDsを処方したが痛みは次第に強くなり、NSAIDsの種類を変えても痛

みは改善しなかった。そこで塩酸リドカインゼリーの塗布を行ったが、外尿道口痛の短時間の改善を認めるのみであった。

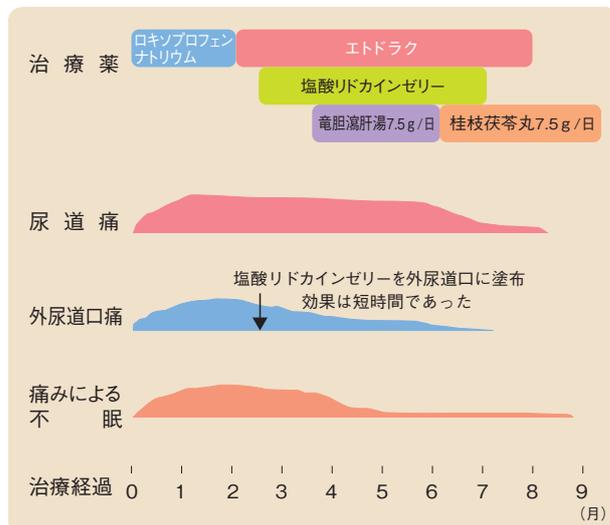
そこで、東洋医学的治療を考え、尿道痛に対し病名処方として竜胆瀉肝湯を投与した。その結果、痛みによる不眠は改善したが、尿道痛はほとんど改善が認められなかった。再度、東洋医学的診察を丁寧に行ったところ、下焦の湿熱はなく、腹診で瘀血の圧痛点を認めたため桂枝茯苓丸に変方した(図1)。すると、尿道痛や外尿道口痛は速やかに改善し、NSAIDsおよび塩酸リドカインゼリーは不要となり、最終的に症状は完全に消失した(図2)。

考 察：尿道痛に対して下焦(骨盤)の湿熱を確認することなく竜胆瀉肝湯を処方したが、実際には充血、腫脹は伴っていなかった。若干効果はあったも

図1 症例1の東洋医学的所見



図2 症例1 臨床経過



のの本治は桂枝茯苓丸の証(瘀血)であった。病名処方によって遠回りした症例である。

### 症例2：65歳 男性 頻尿、夜間頻尿

**主 訴**：頻尿(1時間毎)、夜間頻尿(4～5回/1晩)

**既往歴**：X-7年、尿道狭窄のため尿道ステント挿入治療を受け治癒。ステントを抜去するも再発はない。X-1年、前立腺肥大症の内視鏡手術を受けた。X年3月から頻尿が強くなったが、検尿、尿沈査、血液検査は正常であった。

**経過**：過活動膀胱と診断し、複数の抗コリン剤を投与したが、ほとんど改善を認めないばかりか、抗コリン剤の副作用である尿の切れの悪さ、排尿困難などを生じた。

冷えると頻尿が悪化するとの訴えがあったため、老人性の冷えと判断し、抗コリン剤に牛車腎気丸を併用処方したが効果がなく、さらに補中益気湯に切り替えても症状の改善を認めなかった。経過中、抗コリン剤の副作用がづらいと患者が訴えたため、投与を中止したところ副作用は消失したが、頻尿の改善は認められなかった。

東洋医学的診察を改めて行ったところ、抗コリン剤で軟便がマスクされていることが分かり、冷え性、胃腸障害、さらには腹診所見(図3)から脾腎陽虚と判断し真武湯に変方した。投与1ヵ月で、日中の尿間隔は2時間以上となり、夜間頻尿も2回と改善した(図4)。

図3 症例2の東洋医学的所見

- ・抗コリン剤で排尿困難が強く、尿の切れが悪化したため、一から東洋医学的診察を行った
- ・脈は沈で微弱、舌は湿潤、白苔わずか
- ・臍上部に動悸を触れる
- ・臍の外側に圧痛を認める
- ・腹直筋下部がやや緊張
- ・やや軟便(抗コリン剤でマスクされていた)、胃腸は弱い、冷え性
- ・脾腎陽虚と判断し、真武湯 7.5g/日を投与した

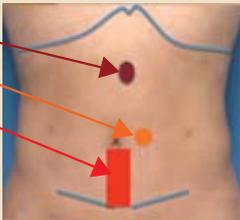
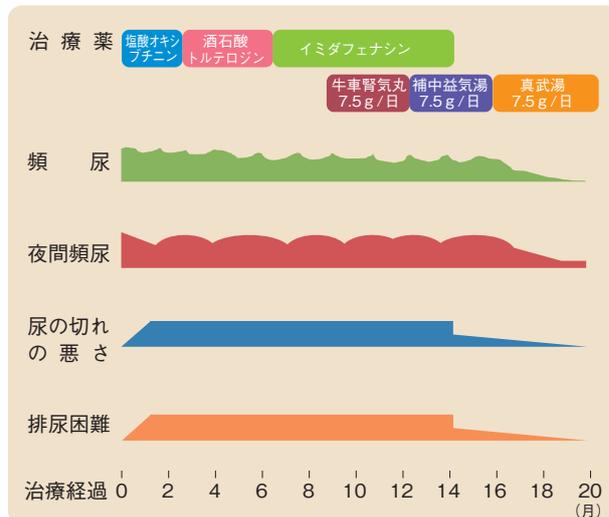


図4 症例2 臨床経過



**考 察**：西洋医学的治療に抵抗する頻尿症例であったが、漢方薬の処方にあたり、冷えや頻尿にとらわれ、さらに抗コリン剤により軟便がマスクされている可能性を見逃した。東洋医学的診察を丁寧に行うことで、より適した処方へたどり着くことができることを教えられた症例である。

### COMMENTS

**後山**：東洋医学的診察を丁寧に行うことは大切ですが、喜多先生、症例2では最初から真武湯と弁証することが可能でしたでしょうか。

**喜多**：初診時の頻尿という所見だけでは、牛車腎気丸や八味地黄丸という選択にならざるを得なかったでしょう。ただ、これらの処方には地黄が含まれており、胃腸が丈夫かどうかはチェックしておいた方がよかったですと思われます。そうすることで、軟便が抗コリン剤でマスクされていたとはいえ、より早く真武湯にたどりついていたかもしれません。